

平成30年度 学校評価報告書

【評価】 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分であった D:全く不十分であった

鳥根県立飯南高等学校

評 価 計 画				自 己 評 価		学校関係者評価		次年度への改善策・取組の方向性
重点目標	具体的目標	H30 重点的な取組事項	H30 評価指標	評価	取組状況(○)と 課題(*)	評価	意 見	
(1) 主体的に学ぶ生徒の育成	① 新たな教育への授業研究の促進	・教科会、教科主任会 ・授業互見、研修(校内、他校、異校種等)	・授業見学の回数、見学後の感想 ・生徒による授業評価 ・校外研修等への参加状況	A	○公開質問を中心として相互の授業参観の機会を多くもつことができた。 ○授業評価を複数回実施し、授業改善に努めた。 * 生徒の主体的学習につながる効果的な指導	A	○子どもたちが自分から意見を言えるような指導は難しいことではあるが、積極的にすすめていってほしい。 ○本を読んで得るものもあると思う。生徒が図書館に足を運べる工夫をしてほしい。	・授業改善に向けて、公開・評価・意識付けなど教員への働きかけを積極的に行う。 ・総学、LHR、生命地域学の3年分の取組とねらいを、系統立てて整理していく。 ・読書に親しむとともに落ち着いた気持ちで授業に向かうことができるよう朝読書の指導を継続的に行う。
	② 飯南型キャリア教育「生命地域学」の充実	・ねらいを明確にした「生命地域学」の実践 ・主体性、発信力を重視した課題研究 ・キャリア教育の体系化、視覚化	・生徒、教職員のアンケート結果 ・講師、協力機関からの評価・感想	A	○生命地域学の各取組は、地域や関係諸機関の支援も得て一層充実させることができた。 * 中学校の「ふるさと教育」との連携			
	③ 図書館を活用した学びの促進	・資料整備、広報、委員会活動の工夫 ・図書資料や新聞を活用した探究学習 ・朝読書	・図書館の活用状況、たよりの発行回数 ・委員会活動の回数と評価 ・生徒、教職員アンケート結果	B	○図書館だよりや図書に関わるイベントの開催により利用者が増加した。 * 図書館におけるICT活用環境の整備 * 朝読書の効果的な取組			
(2) 進路希望の実現	① 主体的に進路選択できる生徒の育成	・進路学習等とおとしての早期の意識醸成 ・面談、個別指導 ・企業見学、学校見学、ジョブフェア	・学習時間調査の結果(推移) ・進路決定等の状況 ・生徒、保護者アンケート結果	A	○面談や進路学習等で意識づけを図った。 ○職業・資格調べ、専門学校体験授業等の新規取組に手応えがあった。 * 生徒自身による活動記録蓄積に向けた支援	A	○上級学校訪問は、親も実際に見学できたので、学費等について理解が深まるよい機会となった。親の都合がつきにくい中、生徒を学校見学等に連れて行ってもらうてありがたい。学年全体に機会をつくってもらってよかった。 ○進路決定状況について、町内生がどのくらい県外に出て行くのかといった情報があるとよい。	・生徒自身による活動記録蓄積に向けた支援体制を構築する。 ・面談や進路学習などを効果的に実施し、進路に対し早い時期からの意識高揚を図る。 ・新しい入試制度に向けた情報収集を行い、生徒・保護者への情報発信に努める。 ・生命地域ラボの活動のPRに努め、生徒・保護者に対する周知を図る。
	② 生徒や保護者への適切な情報提供	・進路指導部と学年会との連携 ・保護者面談等とおとしてのニーズリサーチ ・HPや学校だよりを利用した情報提供	・保護者アンケート結果 ・面談等での保護者の感想、評価	A	○面談や進路講演会等で適宜情報提供を行った。 ○学校だよりやHPで取組状況の発信に努めた。 * 新たな入試制度に対する情報収集			
	③ 地域貢献しようとする生徒の育成	・インターンシップ、体験学習、課題研究 ・飯南ジョブフェアの拡充 ・生命地域ラボ、地域交流の促進	・活動実績 ・活動後の生徒や関係者の感想、評価	A	○課題研究等を生徒の希望進路をふまえた内容としたことで、一層充実した活動となった。 ○地域行事への自主的参加が増加した。 * 生命地域ラボ活動のPR			
(3) 望ましい人間関係づくり	① 互いの人権を尊重する学校づくり	・いじめ防止と組織的な対応 ・早期の情報モラル教育	・HR活動後の感想、評価 ・人権だよりの回数と評価 ・生徒、保護者、教職員アンケート結果	B	○人権だよりの内容を充実させ、人権意識の啓発に努めた。 * 内発的なルール順守と、問題の未然防止	B	○朝の挨拶指導はよくやってもらっており、よいことだと感じている。 ○生徒数減少の中、部活動における部員数の確保について、外部へのアピールが必要。PTAでも協力していきたい。	・PTAと連携し、生徒の人権意識高揚を図り、自ら考えて行動する態度の育成を進めていく。 ・ルールを守るだけでなく、相手の立場になって考えたり、掃除や食事の意味を考えたりする姿勢をもたせる。 ・身だしなみや生活習慣の指導は、全教職員で統一して取り組むとともに、生徒会など生徒自身の働きかけも検討する。
	② 支援を要する生徒への組織的対応	・学年会、委員会での情報共有 ・保護者、SC、諸機関との連携 ・校内研修実施、校外研修への参加促進	・生徒、保護者、教職員アンケート結果 ・研修後の感想、評価	A	○日常的な情報共有を図り、ケース会議を開催した。 ○保護者や外部機関との連携に努めた。 * 校外での研修推進			
	③ 部活動・生徒会活動・特別活動の活性化	・生徒の主体的な活動の推進 ・HPや学校だより、CATVによる情報発信 ・地域や保小中、諸機関との連携	・部活動加入状況 ・生徒、保護者アンケート結果 ・地域等からの評価、感想	A	○情報発信が地元の理解と応援につながった。 * 特別教室、衛生設備の整備			
(4) 中高一貫教育の充実	① 教科指導連携の充実	・打ち合わせ時間の確保 ・共通認識をもつての授業実践	・打ち合わせの実施回数、感想 ・中高一貫教育アンケート結果	B	○定期的な打ち合わせの機会の確保により連携が充実した。 * 各教科の特色を活かした交流の工夫	B	○「生命地域学」に興味がある。小学校でも、将来地元に戻ってきたいと答える子どもが少数である。地元に戻ってきたいと思えるような指導をしてもらいたい。 ○保護者として学校のオープンハイスクールに参加した。寮に関する質問に対応できる方にももらえるようになった。	・出前講座の拡充など、中高の連携を一層深化させる。 ・連携行事のねらいと効果を分析し、内容や時期の見直しを進める。 ・高校ホームページなどによる効果的な情報発信に取組む。
	② キャリア教育の系統化	・各段階での目的、運動性、実践内容の明示 ・飯南型キャリア教育全体図の作成 ・保小中との取組内容の共有	・中高一貫教育アンケート結果 ・連絡会議、推進会議での意見	A	○「生命地域学」の充実を図ることができた。 * 保小中高を貫くキャリア教育の構築 * 行事、企画の精選とねらいの明確化			
	③ 情報の分析・共有と指導	・交流授業、教科会、連携会議 ・授業互見、行事参加の促進	・中高一貫教育アンケート結果 ・連絡会議、推進会議での意見	B	○授業や行事、部活動での連携を図ることができた。 ○三校合同職員会議における協議内容・方法の充実を図った。 * 中学・高校間の積極的な授業互見の実施			
(5) 魅力化・活性化事業の推進による期待される学校づくり	① 支援組織や保小中高大・保護者・地域との連携強化	・PTA、後援会、鵬雲会との連携 ・ホストファミリーとの交流促進 ・生命地域ラボの促進と情報発信	・連携事業の実施状況 ・ホストファミリーとの交流実績、感想 ・活動状況の発信回数と感想	A	○OPTAや鵬雲会・地域と連携して鵬雲祭、オープンハイスクールを実施した。 ○ホストファミリー制度と生命地域ラボの充実で、生徒と地域との定期的な交流が増えた。 * 地域との連携につながるしくみづくり	A	○生徒数は少なくなってきたが、益々魅力化に努めてほしい。 ○UIターンフェア等を利用した東京・大阪・広島での広報活動は積極的 でよい。 ○学校だよりなどの配布により、学校に來なくても学校の様子がわかるのはよい。 ○学校ホームページをよく見ているが、寮だよりも含めて学校の様子がよくわかってよい。	・魅力化コーディネーターと協働し、学校説明会でのプレゼンテーションや資料内容の充実 に努める。 ・通信方法を工夫し、PTA評議員と連携して、活動への幅広い参加を呼びかける。 ・町と連携して、ホストファミリー制度の一層の拡充を図る。 ・挨拶、掃除など本校のよき伝統を受け継いでいけるよう、引き続き生徒・教職員一体となって取組む。 ・生徒主体の寮の秩序づくりと寮内の環境美化に努める。 ・寮だよりの発行や学校ホームページを利用し、保護者や地域に向けた情報発信に努める。
	② PR活動の充実	・在校生による『学校案内』や学校説明 ・HP・FB、学校だよりによる迅速な広報 ・CATVや有線による地元への情報発信	・生徒、保護者アンケート結果 ・オープンハイスクール参加者の評価 ・HPやFBの更新状況	A	○魅力化コーディネーターの支援のもと生徒目線のPR活動ができた。 ○学校だよりやHP、FBにより迅速かつわかりやすい情報発信に努めた。 ○CATVと連携した情報番組が好評を得た。 * FB運用方法の改善			
	③ 魅力的な寮づくり	・保護者・教職員・寮職員の連携 ・ホストファミリー制度による地域交流 ・生徒主体の秩序づくり、美化徹底	・寮生アンケート、寮生保護者の意見 ・教職員、寮関係職員の評価 ・委員会の活動状況	A	○ホストファミリーと連携し、寮生が地域行事に多く参加できる機会を確保した。 ○寮だよりの発行により細やかに寮の情報発信ができた。 * 生徒主体の秩序づくりと環境美化			